

算数教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	「自立的に学び続ける子の育成」 ～数学的な見方・考え方を働かせた「個別最適な学び」を通して～
日時	令和8年8月20日(木) 14:00～16:00
会場	当別町立とうべつ学園
講師	瀧ヶ平 悠史 氏 (札幌保健医療大学 准教授)
参加者	61名
研修会 の 様 子	 今年度は、札幌保健医療大学准教授の瀧ヶ平悠史氏を講師にお迎えし、当別町立とうべつ学園を会場として実技・理論研修会を開催いたしました。 本研修では、前半にワークショップを設定することで参加者がテーマに能動的に向き合い、「自分事化」した上で、後半の講演会につなげるという試みを行いました。前半のワークショップでは「自走する子どもの条件」をテーマに、小学5年生「図形の角を調べよう」の単元を用いて「どこを一斉指導とし、どこを自走(個別・協働)とするか」についてグループで協議し、全体で議論の焦点を深めました。 続く後半の講演にて、瀧ヶ平氏は冒頭で「自立的に学ぶ第一歩は、思考を伴う自己決定である」と指摘されました。内発的動機付けを高める「自己決定」の重要性と、学習者が主体的に目標を設定し選択・判断できる場づくりの理論と実践が示され、子ども自身に選択権を委ねる支援こそが自立的な学びの土台になることを再確認しました。さらに「児童生徒の学びが孤立しないよう、数学的な見方・考え方を働かせられているかを確認することが不可欠であり、必要に応じて個別最適な学びと協働的な学びを往還させることが重要である」と強調されました。参加した教職員からは、以下の声が多く寄せられました。 ◇ワークショップや講演を通して、子どもがどのように自己決定し、自立的に学べるかの具体的なヒントを得ることができた。 ◇これまでは個別最適な学びや自由進度学習といった「方法論」に目が行きがちだったが、本質的な実践の在り方が整理された。 今回の研修会を通じ、子どもたちが未来に向かって自立的に学び続ける姿勢を育むことの重要性を改めて確認することができました。今後は得られた知見を日々の授業改善につなげ、石狩管内全体で「自立的に学び続ける子の育成」を推進できるよう努めてまいります。 終わりにあたり、お忙しい中ご講演いただいた瀧ヶ平氏、会場をご提供いただいた当別町立とうべつ学園の皆様、そしてご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。 (石教研算数部会副部長 紺野 丈)  